

ラオスの子ども通信

39号
2007年 4月発行

発行：特定非営利活動法人 ラオスの子ども 〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12, 303 TEL/FAX 03-3755-1603



特集 寄付って

どう使われてるの?2

サバイディー・ピーマイ(ラオスのお正月特集).....5

プロジェクトの動き~学校図書室(ハクアン).....6

第2回子どもブックフェスティバル.....6

プロジェクトの報告.....8

国内の活動.....10

事務局より/NGO ネットワーク.....11

寄付者・協力者のみなさん12



古都の雰囲気がたたずむ、ルアンパパンの正月

寄付って

どう使われてるの?

みなさんからいただいたご寄付で、子どもたちが本に親しめるようになるには、それにともなって様々な活動が必要になります。

そこで、今回は活動の流れとお金の流れの特集を組みました。

特定非営利活動法人ラオスの子どもは、子ども自らが学ぶ力を伸ばしていくために、ラオスで、「絵本、紙芝居などの出版」「図書室」「集い楽しみ学べる場」などの支援を行っています。

寄付ってどう使われてるの？

活子さん、賛太さん、質問攻めで「ラオスのこども」を応援！

「ラオスのこども」は、どのように収入を得て、どのように活動にあてているのか、Q & Aでご説明していきます。登場していただくのは、活動会員の活子さん、そして賛助会員の賛太さんです。

収入の話

活動の足腰を強くしたい！

事務局長野口：みなさん、いつもご支援ありがとうございます。

活子さん：活動会員です。5年くらい前からイベントのボランティアをしています。

賛太さん：ぼくは去年の「ピーマイ」のイベント（5頁参照）に参加してから、ときどき募金をしています。会員にも2種類あるんですか？

事：活動会員とは、会の運営を共に担っていきたいという方で、総会の議決権を持ちます。賛助会員は、議決権はありませんが、会を継続的に支えてくださる方です。

●寄付、助成金、イベントの売上などが収入源

賛：ぼくらの寄付が、絵本になっているんですよ。

事：はい、そうです。会の収入としては、他に助成金、イベントの売上などがあります。

活：あら、寄付金は少ないのねえ。

賛：政府系助成金とか民間財団で何ですか？

事：政府系とは外務省やJICAなどからの、民間財団は財団からのプロジェクトを指定した助成金です。

活：企業からの支援もあるの？

事：社会貢献活動の一環として、当会へご支援くださる企業もあります。

●自己資金が足りない

活：そういうところからまとまったお金が入るのに、私たちの寄付は必要なかしら。

事：もちろんです！助成金は手続きに時間がかかる上に、すでにお金の使い道が決まっていますし、期限もあります。しかし活動は続きます。活動の足腰を強くし、また活動地の状況に柔軟に対応するための自己資金として、寄付金はとっても大切なお金です。

賛：ぼくは自分がやりたくてもできないことを会に託すつもりで寄付をしています。

事：ありがとうございます。まさに、私たちNGOは、そういう趣旨でみなさんからお金を預かっているのです。

活：じゃあ、がんばって自己資金を増やさないと！

賛：どうやってお金を集めているのですか？

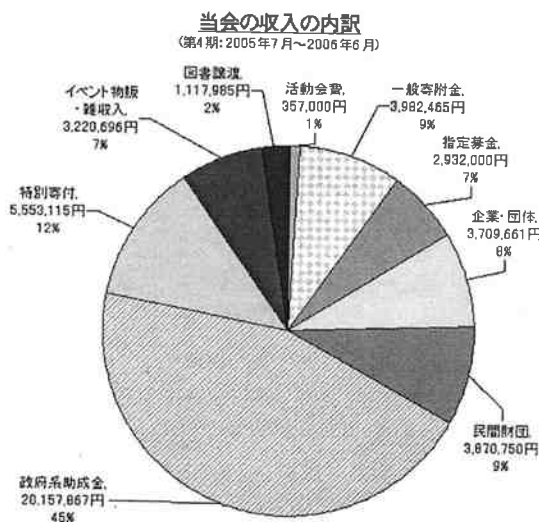
事：会員を増やしたり、寄付を呼びかけたりしています。そのために、この通信を発行したり、ホームページを更新したり、講演に出かけたり、広報宣伝に努めています。しかしまだまだ充分とはいえません。

●お金だけではない協力

活：イベントや販売など、収益を得る活動をもっとやればいいじゃない。

賛：「非営利団体」も営業活動のようなことをするんですか？

事：NPO（非営利団体）としては、イベントの収益をすべて事業に投入します。それが非営利ということです。会ではラオスの織物や一筆箋などを販売しています。その商品をご購入いただいたり、そのイベントの実施を手伝ってくださるボランティアの協力も大切なご支援です。



支出の話

プロジェクト費と事務・管理費

賛：例えば1万円寄付をすると、それは、どんな使われ方をするんですか？

事：プロジェクト指定の寄付と指定しない寄付があり、寄付メニューから選んでいただけるので、それに応じます。

前年度の例として、支出の内訳を見ていただけますか。プロジェクトとして「出版」や「読書推進活動」、「子ども文化センター（CCC/CEC）」の他、委託事業の特別実施事業、そして東京とラオスの事務所経費（人件費含む）があります。

活：単純に考えると直接のプロジェクトのお金が77%で間接費が23%。つまり、1万円のうち、7,700円は本や図書室やCCCに使われ、2,300円は事務や人件費ということ？

事：たまかにはそういう考え方もできるかもしれませんが、指定するものによって、その比率は同一ではありません。スタッフサポート募金にと指定される場合は100%人件費になります。

●プロジェクトの費用とは

活：学校図書室を開設するのにも、本や本棚の費用だけじゃないんですよ。

事：学校図書室のプロジェクトは、ラオスの図書館を司る国立図書館という機関と、学校の監督を行う各県の教育委員会と当会との共同で取り組んでいます。開設時にはそれぞれの職員も出向き、国立図書館の職員がセミナーを行います（6頁参照）。開設はラオス全国で行いますので、その出張の交通費、宿泊費などもかかります。プロジェクトにはそうした分も含まれています。本や本棚だけ購入しても、それを学校に届けたり、使い方を現場に伝えたりするのは人です。その人たちを支えないと、プロジェクトは実行できないのです。

●事務局の仕事

賛：事務局というのは、どういう仕事をしているのですか。

事：プロジェクト実施のための調整です。出

版事業なら、ラオスでは、作家や印刷所との、東京では支援者との調整を行います。セミナーを実施する場合、ラオスでは講師と受講者への連絡、教材及び会場の準備などをします。管轄する教育省や情報文化省は人事異動が頻繁なので、意志の疎通をスムーズにすることも欠かせません。東京では資金確保や会計チェック、報告などを行います。また、先を見通した調査活動も必要です。

賛：助成金の申請は？

事：それも東京事務所の重要な仕事です。事業資金を確保するため、助成金の申請書を作成しますが、限られたフォームの中で、ラオスの状況を理解してもらえるように、書類を作成するのは大変です。そして採用された暁には、中間報告、完了報告書などを提出します。

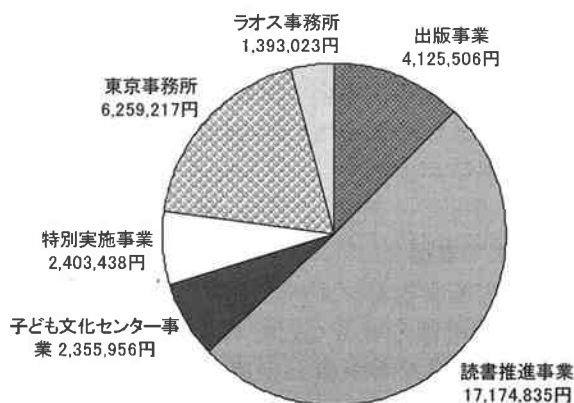
活：ボランティアのコーディネーターもしているわね。

事：はい。ボランティアの人たちにご協力いただいたの、イベント開催や、出展というのも大事な仕事です。

活：ところで、東京事務所のスタッフの給料はどのくらいなの？

事：社会保険を引いて手取りで、経験10年の30代でも月収は20万円には届きません。

当会の支出の内訳
(第4期:2005年7月~2006年6月)



<さまざまなお申し出への対応>

活：私、事務所で電話番号をしたことがあるけれど、いろいろな電話がかかってくるわね。

事：様々な問い合わせやお申し出、依頼も多く寄せられ、それらへの対応があります。

活：どんな？

事：紙芝居のコンクールにラオスの人の作品を応募しませんかとか、社員向けにボランティア体験のイベントをするので、うちの会社に合った企画はありませんかとか、スタディツアーを企画したい、などなど。

活：どういうものを歓迎しますか？

事：受ける側のニーズに合い、会の活動の趣旨に合い、費用対効果が高く、効率的なものは大歓迎です。

賛：欲張りますねえ（笑）。なかには困る申し出もあるの？

事：例えば、「家にある使用済みの文房具を送りたい」「古着を提供したい」とか「絵本を作ったので贈りたい、ラオス語に訳して欲しい」というものなどです。

活：どうして？

事：みなさんの善意はとてもありがたいのですが、ラオスへの運搬費用やラオス語翻訳の費用や時間、そして、何よりも現場に必要とされているか、などの問題を考えると応じるのが難しい場合が多いですね。

賛：では、どうしたらいいのですか？

事：私たちが活動で痛感してきたことは、受け取る側の立場で考える、ということです。

賛：自分なら、それをして欲しいか、ということですね。

課題

こんなお金が集まりにくい

●担い手の意欲向上につながる支援

活：比較的支援の集まりやすいプロジェクトと、なかなか集まらないものがあるの？

事：ありますね。

賛：集まりにくいのはどういうものですか？

事：一つは学校図書室に補充する本の費用です。（p7参照）

賛：補充とは、新刊を図書室に入れていくことですか？

事：開設時に入れられなかった本や新刊本をセットにして配布します。これは図書活動をがんばっている先生たちにも、とてもよい励みとなります。子どもたちに読まれば読まれるほど、本は劣化していってしまいますし、同じ本しかない図書室では、子どもたちの利用も低下してしまいます。

活：逆にいえば、補充がないと活気が出ないということかしら。

事：そうですね。担い手が元気になってこそ、子どもたちにとって、いい教育環境となりますから。

●いつまで支援？

活：子ども文化センター(CCC)はどうかしら。

事：伝統舞踊や音楽などを教えてくれる先生への講師料などが難しいですね。

賛：支援が必要だ、ということが日本人たちに届いていないの？ アピールの仕方の問題があるのでは？

事：そういうこともあるかもしれませんが、もっと工夫をしたいと思います。

活：人材育成とか、形のないものは支援が得にくいのかな。

事：CCCの館長と職員、学校図書室の担当の先生と校長先生が集まって経験交流をすることも、意識の向上に大切です。こうしたものにも資金はつきにくいですが、しかし、担い手の成長こそ、持続可能性が高いのだと考えています。

活：ところで、会としてはいつまで支援を続けるの？

事：当会は中期3ヶ年計画を策定し、それに基づいて活動しています。まさに今年はその3ヶ年の最後の年です。今までの活動を振り返り、ラオス事務所のスタッフも交え、今後の活動の方向性を決めていきます。ラオスでは自立の動きが出てきているものの、まだ解決していない問題も多く、また、経済が発展したことで貧富の差などの新たな問題も生んでいます。今後もラオスの人々と共に一生懸命活動を進めていきますので、ご支援をよろしくお願いします。

サバイディー・ピーマイ!

4月はラオスのお正月、ラオスはこの時期最もにぎやかにお祝いが行われます。
「サバイディー・ピーマイ(あけましておめでとう)」と声をかけ合う光景が見られます。

「ラオスのこども」25周年

サバイディー・ピーマイ・パーティ07 ～一緒に祝おう、ラオスのお正月～

今年も「サバイディー・ピーマイ・パーティ07 ～一緒に祝おう、ラオスのお正月」を開催します。ラオス文化や設立25周年を迎える「ラオスのこども」の活動を理解していただく多彩な企画を2部構成でお楽しみいただきます。

第1部(13時～14時30分)は、チャンタソン共同代表らによる対談。第2部(15時～17時30分)は、パパイヤサラダやラオス風ぜんざいなど本格ラオス料理を楽しみながらの、お祝いのパーシー儀式、ラオスの踊り披露、抽選会などを企画しています。会場には活動紹介や絵本づくり、手工芸品(伝統染織の布製品、スカーフ、ポーチなど)の販売などのブースを設置。まさにラオスの魅力に触れ合える1日です。

日時:4月21日(土)13:00～17:30(受付開始12:30)

会場:大田区池上会館(東京都大田区池上1-32-8)

※去年までとは会場が違います!!ご注意ください

交通:東急池上線池上駅下車徒歩10分

参加費:一般&会員3,000円、小中学生1,000円

(収益はラオスでの教育支援活動に役立てさせていただきます)

定員:170人(先着順、予約制)

主催:特定非営利法人ラオスのこども

参加ご希望の方は、お名前、ご住所、ご連絡先、参加人数をご連絡の上、お早めにお申し込みください。

問い合わせ・申し込み:ラオスのこども事務局

電話・FAX:03-3755-1603

メール:deknoylao@yahoo.co.jp

◇調理担当より気合いの一言◇

「サバイディー・ピーマイ・パーティ」で、皆さんが楽しみにしている事のひとつがラオス料理!そこで、毎年調理担当として、その腕を発揮してくれる会員の3名に今年の意気込みを語ってもらいました。

横山真紀子さん(写真右)

以前はパパイヤサラダにニンジンを代用していたけど、今年はパパイヤが手に入るの、とても楽しみです。

小澤順一さん(写真中)

去年はひたすら肉を切っては焼くという、肉担当でした。今年もおそらく肉担当でしょうね(笑)。

料理は食材とも会話して楽しく!

清水宏子さん(写真左)

お正月にもラオスに行ってきたので、現地の味を確かめたリアルなラオス料理を目指します!今年は鶏肉のオープン焼きが楽しみです。



ラオス料理レシピ <ラープ(ラオス風牛肉のたたき)>

ピーマイ(ラオス正月)が近づいてきました。ご家庭でラオス料理を試されてはいかがでしょうか。今回はラオス料理の代表的存在「ラープ」のレシピを紹介します。ラオス語で「幸運」を意味するラープは、結婚式や祭りなど、祝いの席では欠かせない一品です。

材料(4人分)

牛肉(ステーキ用):400g、ショウガ:2切れ、ニンニク:2片、玉ネギ(M):1/4個、ナムプラー:大さじ2、レモン汁:大さじ3、粉唐辛子:お好み、もち米:大さじ2、ワケギ(みじん切り):1/2束、シソの葉:10枚、ミントの葉:少々、コリアンダー:少々

- ①もち米をきつね色になるまで煎り、すって粉にする。
- ②牛肉はミディアムくらいに焼き、幅2cmほどに切り、さらに小さく刻む。
- ③ショウガ、ニンニク、玉ネギをみじん切りにする。
- ④③の材料とナムプラー、レモン汁、粉唐辛子を混ぜ、①とワケギ、シソの葉のみじん切りを加え、牛肉にかるく和える。
- ⑤皿に盛り、ミントの葉、コリアンダーを飾る。



学校図書室(ハクアン)の開設とフォローアップ

学校の空き教室に図書室を開設する「学校図書室」の活動、ハクアン=Hak Arnはラオス語で愛読を意味し、学校図書室の愛称になっています。みなさまのご支援で、2006年度は現在までに14校で開設することができました。

●開設時にセミナーは必須

学校図書室(HA)開設の際は、開設式とともに先生方へのセミナーを行います。式を行うことで図書室が学校に開設されたことを生徒、先生、教育局の担当官、さらに地域の人々に知ってもらうことができます。

また、セミナーは図書の維持管理、活用方法などを先生が修得するために必ず実施しています。



サワナケート県 ウドムスック小学校(HA157)

●先生、生徒、学校をあげて図書室セミナーに参加

私(猿田)が同行したサイヤブリ県での様子をお伝えします。

国立図書館スタッフ1人、県教育局読書推進担当職員1人、当会からラオス人スタッフ1名と私の計4人で学校に到着。校庭には全校生徒と先生が集まっていました。式の準備の間、当会スタッフが子どもたちに歌と遊戯、紙芝居の実演をしました。式の後、図書室となる教室で配付した図書・文房具の確認作業を行いました。

午後からは図書室内で国立図書館スタッフによるセミナーを開始。図書室担当の先生だけでなく、他の先生と子どもたちにも参加してもらいました。実は、子どもたちがセミナーに参加することがとても大切です。なぜなら、先生が忙しくて図書の貸出ができないという場合でも、子どもたちが手伝うことで図書室活動が滞ることなく、活性化していくことが期待できるからです。

また、校長先生と他の先生が図書室や図書を理解す

ることも併せて重要です。この学校では校長先生も参加しました。期待が持てます。

国立図書館スタッフによる講義(図書室の意義、新しい本の調達方法、本の登録方法、貸出カード入れの作り方・貼り方などの説明)と本の登録作業を実習しました。

2日目、登録の続きと貸出カードを入れる袋作り、貸出カードの記入、貸出と返却の練習、利用者数の記録と報告について講義と実習。作業をしながら、先生が本を手にして読み始めるという光景も見られました。

<2006年度開設の学校図書室とご支援者のみなさま>

HA146	ノーンパム小学校	財団法人豊島福祉基金
HA147	ポンキーオ小学校	株式会社まるやま 柳生良隆
HA148	ドーンキヤオ小学校	高橋文恵
HA149	ウドンシン小学校	三井住友銀行ボランティア基金
HA150	テッサバーン中高校	三井住友銀行ボランティア基金
HA151	コンバット小学校	L-JATS(Lao-Japan Airport Terminal Services)
HA152	コーンケオ小中学校	鈴木真弓
HA153	フォイスゲオ小学校	イントン・ウドン氏の家族
HA154	ムアンハム小学校	ベルマーク教育助成財団・豊府小学校・松丘小学校
HA155	トンミーサイ小中学校	若林地所株式会社 若林孝治
HA156	セボン中学校	ベルマーク教育助成財団・清泉女学院中高等学校・川棚高等学校
HA157	ウドムスック小学校	ベルマーク教育助成財団・与板中学校・一本松小学校
HA158	サイモンコン小学校	株式会社まるやま 柳生良隆
HA159	ソムモンコン小中学校	上原康央

※HAは学校図書室Hak Arnの略で数字は通し番号です。

ご支援者の敬称は略させていただきました。



セミナーで図書管理の実習を受ける先生方(HA158)

●HAフォローアップセミナー、図書の補充は先生の大きな励みに

学校図書室開設事業は1995年に開始し、各学校で活発に利用されていますが、10年を過ぎ、なかには休止状態の学校も出ています。先生の異動など引継ぎが不十分な場合、休止の一因となっています。そのため既設校へのセミナーは重要です。今年、ようやく予算の目途がたち、2005年までに開設した全145校にフォローアップセミナーを実施することができました。北部、中部、南部の3か所で各3日間の日程で実施。図書の配付もできました。

活動の報告、評価と講義、図書室運営作業と図書の利用法の講義と実習を経て、最終日はグループごとの発表（本の読み聞かせ・語り・紙芝居の実演・本の紹介など）をし、先生相互の問題意識の共有、意識啓発のよい機会になりました。図書の補充の予算確保は難しく、なんとか学校自身の力で新たな図書を得るよう模索をしています。しかし、フォローのセミナーや新刊図書の補充は先生にとって大きな励みとなります。皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。（猿田由貴江／駐在員）



紙芝居の実習風景

大盛況！ 第2回子どもブックフェスティバル 開催

2月3日～4日、子ども教育開発センター（CEC）で「子どもブックフェスティバル」が開催されました。昨年に続き、2回目の開催となった今年は語りや絵のコンテスト、ステージでの発表、移動図書館車での読書コーナー、本の販売コーナーの他、絵本の人気投票や出版絵本の表彰なども行われました。2日間の来場者は1300名を越え、昨年を上回る大盛況となりました。絵のコンテストへの参加は125名。語りは3部門合計88名が参加。どの部門も昨年を大きく上回り、昨年に続いて2回目の挑戦という子もいました。

フェスティバルの運営は、CECや当会を始め、国立図書館、SVA、PADETC、CWSなどラオスの読書推進活動に関わる団体が協力して行いました。

今回の新企画は、子どもたちによる「私の好きな本」の人気投票。

各団体から出版された子ども向け図書約500冊を展示し、好きな本を1人3作品選んで投票するというもの。投票された作品は150タイトルを越え、集計は大変な作業となりました。高得票の作品はほとんどが最近出版されたものばかり。「もっともっと新しい本を読みたい」という子どもたちの願いが伝わってきました。

最多得票作品は、同票数の2作品で、12月に出版されたばかりの『カンパー君学校へ行きたい』とラオスで最もよく知られている昔話『シンサイ』でした。

また、最近2年間に出版された絵本の中から最も良い作品を選ぶというプログラムもありました。こちらは図書館や出版関係者7名の専門審査員により選ばれま

した。文と絵を総合的に審査した結果、1位は当会出版の『穴に落ちたヒヨコ』（8頁参照）でした。次回の受賞をめざして、若手作家や作家の卵たちが制作に励むことを願い、今年のフェスティバルは閉幕しました。

（赤井朱子／スタッフ）



小学生部門参加者53名から1位に選ばれた(左から)サイニャデードくん、スニサーさん、スックサバイさん、どの子も当会や他のNGOが運営する図書室の常連です。



中高生部門参加者22名から1位に選ばれた(左から)チョムチャイさん、ソムサヌックさん。



先生部門参加者11名から1位に選ばれた(左から)ヴィライワンさん、ケオミィサイさん。

出版プロジェクト

『穴に落ちたヒヨコ』

作：オートン カムインスー

絵：ヴォンサワン ラムロンスック

18.5×25.5cm、全カラー、28頁

5,000部（JICA草の根技術協力事業3,000部、
当会2,000部）



小学生向け物語絵本。1993年当会出版作品の改訂版。学ぶことに興味がないヒヨコはある日、深い穴に落ちてしまい、困っていると、友だちが知恵を出し合って助けてくれた。ヒヨコは新しいことを学ぶということの大切さを知る。

『私たちの世界』

作(英文)：フィリップ ギブソン

ラオス語訳：ダラヴォン カンラヤー

挿絵：コンパット ルワンラート 他

15×21cm、表紙・挿絵カラー/本文モノクロ、
166頁

5,000部（JICA草の根技術協力事業3,000部、
当会2,000部）



小学校高学年～中高高校生向け、
生物科学読み物。地球の歴史、生態系、宇宙、人類の
歴史、種の起源などが会話形式でわかりやすく書かれて
いる。英語版からの翻訳。

『少女ヌアンドーム』

作：ウティン プンヤボン

絵：シッコー ミラコン

25.5×18.5cm、全カラー、32頁

5,000部（JICA草の根技術協力事
業3,000部、当会2,000部）



小学生向け物語絵本。1993年当会出版作品の改訂版。6歳のヌアンドームとお酒好きのお父さんの物語。酔っぱらって帰っては家族を困らせていたお父さんにヌアンドームが注意をする。子どもが大人に意見を言い、大人もそれを聞くことの大切さを伝えた作品。

ラオス国立図書館から感謝状

当会が学校の図書活動を行う上でパートナーとなっているのが、情報文化省が管轄するラオス国立図書館です。今年、ラオス国立図書館は50周年を迎え、1月26日に記念イベントが開催されました。情報文化省大臣も出席した記念式典で、当会ラオス事務所は、長年に渡り国立図書館に協力し、ラオスにおける読書推進活動の普及に貢献してきた団体として、情報文化省より感謝状が贈られました。



doc25

ラオスのこども設立25周年の記録

1982年に日本からラオスに日本の絵本を送ったのが当会（当時は「ASPB ラオスの子供に絵本を送る会」）の始まりです。それから25年、絵本はラオスでラオス人の作品（もちろんラオス語）を出版し、学校に図書室を開設し、先生方に研修を行うという、より効果の高い支援を進めています。

この25年のあゆみを記録にとどめようと、当会の定例の運営会議（どなたでも参加できます、原則毎第二日曜日に開催）の場で関係者に話を聞く勉強会を開いています。

記念すべき第一回目の勉強会は創設者であるチャンタソンの話。

「高校時代、友だちが日本に留学したいというから、

つき合いで受けたら、その子は落ちて自分が受かったのが日本との出会いの始まり」だったこと、日本で暮らし、子どもが生まれ、絵本と子どもの結びつきの強さを知って、ラオスの子どもたちにも、と活動を始めたことなど、会の前史から語り起こしています（当会ホームページ<http://deknoylao.org>の『ブログ「25周年記念doc25」』からご覧いただけます）。

当会では25年の足どりを、勉強会開催や、インタビュー、ブログの公開などにより、内部だけでなく支援先、協力者の方々から声も集め、まとめながら、あらためて自分たちがやってきたことを見つめ直し、次に活かしていきたいと考えています。どうぞ、ご注目ください。

MP 研究会ラオス視察ツアー ボリカムサイCCCを訪問

2006年10月・11月、株式会社ミクプランニング(MP研究会)の社員の皆さんが、支援先のボリカムサイ子ども文化センターを視察。子どもたちとの交流体験記をお届けします。

■ラオスの子どもたちが描く虹

ラオスについてみると、のんびり・ゆったりしてチョーいいところ！雨が降れば遅刻はフツーだし、マーケットのおばちゃんはお昼寝しているし、私にぴったり☆ご飯もビールも激ウマ！ああ、このままラオスに住んじやいたいと思うほどでした。

ホームステイ先の家に着くと海の家？ みたいなどころでびっくり！ はしごを上ると玄関兼居間があり、その隣が寝る部屋。電気は蛍光灯1本、あとはろうそく。トイレとお風呂は外、シャワーじゃなくてホースの水でシャンプー。

センターで一緒に絵を描いてみると、子どもたちはなかなか自分の考えで絵を描きません。絵を描くのは好きだけど、みんなが同じ国旗や山の絵、決まったものを描いていて、ぶっちゃけそれって楽しいの？ と思いました。でも虹のタペストリーを作った後、残った新聞紙に虹を描く子どもたちがちらほら。それってもっとたくさんの絵やモノを見たらいろいろ描けるようになるんじゃない!? もっと楽しくなるんじゃない!? そしたら空想の世界を描きだして、いろんな事に興味を持って、考える力が身につくようになるんじゃないでしょうか。(第1回派遣団 10/5～10 宮原佐和子)

■ラオス 「百聞は一見に如かず」

行く前に想像していたものとは良い意味で裏切られました。聞くと行く・見るでは大違いですね。世界は広いし、そこには人間の営みがある。当たり前のことを改めて認識させられた6日間でした。行く前は、ボランティア活動の一環のようなつもりでいましたが、反対に教えられたことや癒されることがたくさんありました。おそらく、実際に行かないと(実感としては)決してわからないことだと思います。その意味でも、今回のこの企画は非常に意義のあるものだったと思います。機会があればぜひ2回、3回と訪問してみたいとも思いました。

子どもたちは想像していた以上に我々のプログラムを喜んでくれました。やって良かったと心から思います。

(第2回派遣団 11/2～7 佐藤隆則)

※株式会社ミクプランニングは、(特活)MP研究会を立ち上げ、国際協力に取り組んでいます。



voice!

「ラオスの初等教育」～ギャップをどう埋めるか

山田紀彦

調査のため、ラオスの村にはよく足を運ぶが、そのたびに頼まれることがある。「村に小学校を建ててくれないか?」。これは、訪れたほとんどの場所で村人に言われる。一般的な村の小学校は、木造平屋建ての校舎で窓もなく、机と椅子も古く、黒板も汚い。

初等教育の重要性は政府にはあまり認識されておらず、公共投資は高等教育に向けられる。そのため、小学校の環境整備は村の責任となる。しかし、村にも予算がなく、校舎の建設や改築費用は保護者自身が負担する。チャムパサック県のある村では、保護者全員から寄付金を集め、校舎の改築を行っていた。村長は、「必要に応じて毎回保護者から寄付金を集めるが、大きな負担になってきている。郡に学校建設を申請しても予算がなくどうにもならない」と半ばあきらめ顔で嘆いていた。

もちろん、校舎の建設や改築は重要な問題である。自分達の村に小学校を建てたい、学校の設備を整えたい、という村人の願望も理解できる。しかし、それと

共に重要なのは、教師やカリキュラムの質を向上させ、子ども達の教育レベルを上げることではないだろうか。

正直言ってラオスの教育レベルは非常に低い。ラオス国立大学の学生レポートを何度も見たが、外国人から見てもひどい文章を書き、内容も大学生とは思えないレベルだ。論理的に物事を考え、文章を書くという事が全くといっていいほどできていない。これは、最も重要な初等教育で、しっかりした教育がなされず、学習の基礎が形成されていない事が原因だと思われる。

教育におけるハード(校舎や機材等)とソフト(教員育成や教育内容の改善等)両面の整備が重要なのは言うまでもない。が、村人のニーズは校舎建設で、ラオス政府も国際機関もハード面に目を向ける傾向がある。村人の短期的なニーズ・支援の潮流とラオス教育全体の長期的ニーズとの間には大きなギャップが存在する。このギャップを埋めながら、ハードとソフトの均衡をどう図っていくか、教育分野支援の最も重要な課題である。(ラオス行政・人事管理庁JICA 専門家)

国内の活動

2006年11月～2007年2月

イベント

ご来場、ご参加、ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。

●OTAふれあいフェスタ

11/11～12 平和島競艇場（東京都）

約30万人の人出がある地元・大田区の地域イベントで、会は毎年ボランティアが中心になって参加しています。今年も活動紹介のパネル展示と、ラオスコーヒー、レモンガラスティー、ラオス風ココナッツのおしるこ、そしてラオスの手工芸品の販売を行いました。2日間とも悪天候の中、ボランティアのみなさんが一生懸命がんばってくれました。



●第5回ワールドカルチャーフェスティバル

1/19 キッコーマンKCCホール(東京都)

共催：アサヒビール株式会社、花王株式会社、キッコーマン株式会社

料理やファッションなど文化の紹介を通して、楽しみながら、途上国やNPO・NGOの国際協力活動などに関心をもっていただくことを目的として開催されているイベントで、会は毎年参加しています。今年もNGO4団体が参加。参加者は100名にものぼりました。料理は各NGOが作り、手工芸品の販売や活動紹介も行い、会はハーブ入り牛肉のサラダ、もち米、唐辛子みそを提供して、「おいしい！」と評判でした。

イベントにボランティア参加！

ラオス、ウガンダ、タイ、カンボジアを支援するNGOが美味しい料理をふるまいながら活動を紹介。民族衣装の華やかなファッションショーもあって、楽しく有意義なフェスティバルでした。ラオスに縁のない方にも、いちばん身近な“食”を結びつけたことで、先入観や垣根なく“ラオスのこども”を紹介できたように思います。

私自身もかなり楽しんでしまいました。“ラオスのこども”の活動に参加して日が浅く、ラオスも、“ラオスのこども”も、これから知っていききたいという発展途上ですが、もっと、もっと知識を深め、何か役立ちたいと思う機会にもなりました。

(伊藤恵/ボランティア、写真左)



コンクール

●第7回手づくり紙芝居コンクール

主催：紙芝居文化推進協議会

一般の部でラオスからの応募作品ヴィライチット・ドゥワンダラーさんの『歌を歌うイカ』が入賞しました。11月26日に行われた本審査ではボランティアの小熊さんが見事な実演を披露してくれました。歌や踊りを交えながらのゆかいなラオスらしい作品です。作者のヴィライチットさんは子ども教育開発センター(CEC)の元職員です。

ラオス語絵本プロジェクト

●ラオス語絵本づくり

12/16 富士ゼロックス株式会社

去年から社員の方、端数倶楽部のメンバーの方とともに、絵本貼りのイベントを開いています。当会の活動やラオスについてお話ししながら、皆さんの絵本にラオス語訳が貼られました。これらの絵本は、会が支援をしている学校図書室などに届けられます。



●絵本づくり体験

2/8 田園調布雙葉中学校(東京都)

国際ボランティア学習として、中学2年生を対象に特別授業と絵本づくり体験の機会を持ちました。

生徒たちは事前学習で調べたラオスの政治や経済、文化などをグループで発表。特別授業では、ラオスに関するクイズやDVD映像、民族衣装のシンの試着体験、簡単なラオス語講座などを通してラオスのことを伝えました。ラオス語翻訳を貼った絵本が42冊完成しました。



事務局より

<ラオス事務所の動き>

- 11月
11/2-6 第2回MP研究会ツアー受入
11/8 事務所スタッフ会議
11/12-18 読書推進セミナー<チャムパサック県>
11/19-25 読書推進セミナー<セコン県>
11/28 JICA定例ミーティング出席(赤井)
11/30 Japan NGO ミーティング(JANM)出席(赤井)
- 12月
12/13 猿田着任
12/16 CECにて出版記念式典実施
12/17-22 HA154~155開設<サイヤブリ県>
12/23-1/22 赤井一時帰国
12/27 Japan NGO ミーティング(JANM)出席(猿田)
12/29 事務所スタッフ会議
- 1月
1/2-4 JICA青年招聘事業フォローアップに協力
1/13 事務所スタッフ会議
1/23 Japan NGO ミーティング(JANM)出席(猿田)
1/25 JICA定例ミーティング出席(猿田・赤井)
1/26 国立図書館50周年記念式典出席(赤井・猿田)
1/31 JICA草の根技協・活動報告会出席(猿田・赤井)
- 2月
2/3-4 子どもブックフェスティバル
2/5-9 読書推進セミナー<ヴィエンチャン県>
2/9-12 学習院女子大学スタディーツアー受入
2/16-19 北部HAフォローアップ<ルアンパバン県>
2/21・22・24 早稲田奉仕団スタディーツアー受入

※HA=学校図書室(ハックアーン) TTC/TTS=教員養成校
CCC=子ども文化センター CEC=子ども教育開発センター

<東京事務所の動き>

- 11月
11/12 理事会
11/11-12 OTAふれあいフェスタに出店
11/25 スタディーツアー報告会実施
11/28 いのり題目の日に出版(黒古)
11/30-12/2 JANIC主催危機管理セミナー参加(猿田)
- 12月
12/10 理事会、運営会議
12/12 猿田、ラオス派遣
12/16 富士ゼロックス株式会社でラオス語絵本づくり(黒古)
- 1月
1/14 理事会、運営会議
1/19 第5回WC Fに参加(チャントソン・黒古)
- 2月
2/5 大森高校定時制で国際理解ウィーク授業担当(小川)
2/5 関着任
2/8 田園調布雙葉学園で絵本づくり体験授業(黒古・関)
2/10 EFAグローバルモニタリングレポートローンチングセミナー発表(森)
2/11 理事会、運営会議
2/26 田園調布雙葉中学校の事務所訪問受け入れ

●東京事務所の新スタッフ紹介

2月からスタッフに加わった関千春です。ラオスとの関わりは、1999年に青年海外協力隊でラオスに行ったことから始まります。その時の体験や出会いなどは人生の宝物になっています。そして偶然か、運命のいたずらなのか、この会へと導かれた今、自分なりにラオスへの恩返しができればと思っています。不慣れなことも多く、ご迷惑をかけることもあります。温かく見守って頂けたらと思います。よろしくお願いします。

NGOネットワーク ~学校に求められる「教育の質」~

学校に通っていない子どもは世界で7,700万人に上るといわれています。

世界の国々は「初等教育の完全普及」を2015年までに達成することを、2000年に国連でミレニアム開発目標として約束しています。途上国は教育予算を増やし(国家予算の中で比率を上げ)、先進国は援助をして目標を達成するという一方で、この約束が実行されているのかを点検した報告書の報告会として2月10日、「EFAグローバルモニタリングレポートローンチングセミナー」が東京のJICAで行われました(EFAとはEducation For All、「万人のための教育」)。

国によって達成状況は様々ですが、共通しているのは、教育予算の中で圧倒的に不足しているのは教員の人員費で、先進国は人員費への援助を嫌うということ。校舎建設などと

違って人員費はきりが無い、というのが嫌がる理由です。その結果、教育の質も上がらず、小学校での退学率の高さの要因となっています。

この報告会で森がNGOによる教育の質向上のための取り組みとして、学校での読書推進活動を報告しました。ラオスでは小学校も進級試験があり、1年生の3割が落第し、2割が退学(ラオス教育省統計をもとに当会が算出)していますが、授業に読書を取り入れることで読む力をつけるとともに、先生が絵本などを読み聞かせることで先生自身の意識と意欲が向上。本の効果に気づいた学校の校長は「教員の1人を図書専任にし、落第を減らしていく」と取り組みを強化していることなど読書推進運動の成果を伝えました。

(森 透/共同代表)